

歴史美術研究室「19世紀における三人のポスター画家から見る当時の女性像」

1796年、アロイス・ゼネフェルダーがリトグラフ印刷を発明し、その後、ジュール・シェレがこれを更に簡略化させた。また、1855年のパリ万博以降、1867年、1878年、1900年に万博が開催され、産業の機械化と組織化が進むに従って生産性が飛躍的に向上し、社会は大衆消費社会へと変貌した。

19世紀のフランスには、前述した要因で印刷媒体を通じて様々な平面デザインの表現が形成され始める。本稿では19世紀のヨーロッパを中心に広告ポスターを主たる考察対象として、作家、作品、それらから見る当時の女性像について論じていく。

アーカイブズ・史料学研究室、日本近世近代史研究室

「関東大震災から見つめる震災アーカイブ」

【震災アーカイブとは】

当時の災害や復興の様子を記録した映像や資料などをデジタルデータとして保存し、インターネットで一般に多く公開する取り組みのこと。

【発表内容】

関東大震災と阪神淡路大震災の両者の概要や、被害状況等を研究することで、関東大震災で得た経験や教訓がどのような形で阪神淡路大震災に活かされたか、もしくは活かされなかったかを紐解いていく。

主に研究対象としていくものは法律、復興費用に関する文書などである。

日本城郭研究室 『安土城について』

「お城」と聞くと、天守や石垣などを思い浮かぶ人がほとんどでしょう。しかし、中世に造られた城のほとんどが土塁を中心としたものでした。中世城郭から近世城郭に移行するにあたり、安土城築城は大きな転換点でした。また、信長の功績は天下統一事業だけではなく、築城概念も秀吉・家康に引き継がれました。約10年間しか存在せず、いまだ謎が多い安土城の構造・機能、城郭史における役割などを、発掘調査資料、現地調査などから考えていきたい。

文化財科学研究室 『出土金属製品の保存処理について』

文化財科学研究室は、大分県別府市円通寺遺跡から出土した金属製品の保存処理について発表を行う。円通寺遺跡は別府大学構内にあった遺跡であり、第1調査から第5次調査までに出土した鉄鏃、鉄斧、刀子などの金属製品を今回取り扱った。発表ではおもに、保存処理を行う前の事前調査とクリーニング作業について紹介する。事前調査では、電子顕微鏡を使った遺物の表面観察やX線透過装置を使った内部構造の調査を行った。また、クリーニング作業では遺物に付着した錆や石の除去を行った。こうした作業を通して、得た気づきや反省点を今回報告する。

女性史研究室 「社会情勢の変化に伴う女性のメイクアップ変遷」について

女性史研究室では主に歴史上の女性人物や女性に関連する事柄などを中心に研究している。今回テーマとする女性のメイクアップもそのうちの一つである。

女性のメイクアップは時代によって社会や生活様式と同様に、現在において終わることのない展開を続けてきている。もはや文化としても定着しているメイクアップだが、それは日本だけに限られた文化ではない。今回は、女性のメイクアップに視点を置き、社会情勢や時代の流れと共にこれまでの変遷を取り上げる。また、今後の社会や生活様式の変化によってメイクアップがどのような変遷を遂げていくのかを考察する。

戦史研究室 『中津暴動から見る大分県と西南戦争』

明治時代初期に熊本・鹿児島を中心に九州全域で行われた内戦である西南戦争について、激戦区以外の記述を調査し、西南戦争が九州各地にどのような影響を与えたかを調査することが今回の目的だが、全ての県について調査するには膨大な時間が必要となり、今回の調査期間ではすべてを調査することは不可能と判断した。そのため、今回は大分県特に中津で発生した中津暴動について調査し、大分県内での西南戦争とその影響力について調査することとした。

東洋史研究室『農民皇帝劉邦～皇帝までの道のり～』

わたしたち東洋史研究室は、漢の初代皇帝である劉邦について調べました。

中国史において、農民出身の皇帝は2人います。1人は明の朱元璋、もう1人は今回調べた劉邦です。なぜ劉邦は農民出身であったにもかかわらず皇帝になることができたのか。また、私たちは現在農民出身というふうに一括りにしているが農民とは私たちが現在考えているような農民であるのか。これらの点に着目して調べていきました。調べるうちに、劉邦が皇帝になるには私たちの知らないさまざまな背景がありました。

今回は、農民であることに着目して見ていただければ幸いです。

考古学研究室 「支石墓と稲作の伝播関係についての考察」

今回の史学研究会では、支石墓と稲作の伝播関係についての考察を行いたいと思う。支石墓とは弥生時代の前期ほどに北部九州で使用された朝鮮半島が起源と考えられている新来墓制であり、この時期とほぼ同時に稲作の文化が伝播したと仮定し、一番初めはどこに文化は到達し、広がりを見せたのかを考察した。

その根拠は副葬品である「壺棺」や「祭祀用土器」の形式と、支石墓と稲作の「推定伝播ルート」からの推測である。支石墓に関してはいまだに不透明な部分が多く、学び初めの私にとっては難しいことが多かったが、諸先生、先輩方のおかげで今日こうして発表する機会を頂けたことに感謝したい。

アジア史研究室 「日越の勝利から考えるモンゴル軍の弱点」

アジア史研究室では、主にアジアの歴史やアジアと関わる日本の歴史について研究している。今回テーマとする蒙古襲来もその一つである。蒙古襲来といえば、1274年・1281年の「九州で起きたモンゴル軍との戦い」という風に端的に学校では学ぶが、その戦いを深く学ぶと当時のモンゴル軍に我々は蒙古襲来時に建設された福岡にある防塁を実際に見に行き、当時覇権国家のモンゴルを打ち負かした日越両軍の対モンゴルの対策をより詳しく研究して考察する。

民俗学研究室 「農山村における民俗伝承と生活―杵築市大田俣水・波多方村地域を事例に」

日本の原風景を保存したムラの文化は、都市の人口集中化とコロナの影響で風前の灯火となってきました。

そうしたなかで、杵築市北部、大田波多方・俣水地域の民俗調査を実施し、その記録を公開・発表いたします。昭和前期から現在までの庶民生活の様子を紹介し、国東半島の風土色豊かな農村文化をお接待といった祭りや七島藺農耕など様々な文化を多角的に眺め、学生の視点からアプローチを試みたいと思います。

当研究室は、杵築市北部、旧朝田村のうち大田波多方・俣水地域の民俗調査記録を公開・発表する。コロナ禍を経て、変化しつつある農村の風景を採話記録によって捉えたものである。本発表では昭和前期から現在までの庶民生活の様子を紹介し、国東半島の農村文化をお接待といった祭りや七島藺農耕など様々な文化を多角的に眺め、庶民文化は記録が残りづらい中、学生達の聞き取り調査によって、学生達なりの視点を以てアプローチを試みる。

西洋史研究室 『神聖ローマ帝国における宗教改革について』

今回西洋史研究室では宗教改革について論じていく。11世紀から十字軍や14世紀のアナーニ事件から勃発した教皇バビロン捕囚など、権力の弱体化や、聖職者の腐敗、カトリックの内政干渉など、カトリックへの支持とは対称的に、権力を増大させていく姿に不信感が広がる中、ウィクリフの批判から始まり、ルターやカルヴァンなどの活動をへて今日までのプロテスタントにつながっている。本文では16世紀の宗教改革について当時の神聖ローマ帝国をはじめとする代表的な国々をいくつか論じていきたい。

日本古代史・中世史研究室『史料からみる豊後国と承久の乱』

鎌倉時代に勃発した承久の乱について、近年坂井孝一氏が近年書籍を出版するなど、豊富な研究が存在する。一方、ここ大分県の大部分を占める豊後国についての承久の乱研究は、渡辺澄夫氏が荘園ごとに行った研究以外に目立った研究は無く、当時の豊後国内全体を掴むことができない。

今回の発表では、豊後国内を宇佐神宮領・大友、摂関家領・天皇家領の三つに分け、承

久の乱が豊後国にどのような影響を与えたのかについて、承久期の荘園史料などを用い全体像を確立していく。